



福井市自然史博物館

博物館だより

FUKUI CITY MUSEUM OF NATURAL HISTORY NEWSLETTER



カタクリの蜜を吸うギフチョウ（2015年3月27日 足羽山）撮影：梅村信哉

福井の自然史情報

スプリング・エフェメラル

早春に姿を現し初夏には姿を消してしまう植物や昆虫を、「春のはかないもの」を意味する「スプリング・エフェメラル」と呼びます。足羽山のスプリング・エフェメラルといえば、カタクリとギフチョウ。雪解け間もない早春の落葉広葉樹林を散策すると、カタクリの蜜を吸うギフチョウに出会えるかもしれません。

ほんのわずかな期間にしか見られない春の妖精たちを、ぜひ一度探してみてください。



中面に関連記事があります。



ヘレナモルフォ

チョウと蛾と



ヨナグニサン

～とってもステキな自然のデザイン～

開催期間●2017年3月18日(土)～5月28日(日)

チョウは昼間に活動し、アゲハなど大型のものが多いことから、私たちにとってなじみの深い昆虫です。また、様々な色の鱗粉が並んで作られる翅の模様は大自然の作りだした壮大な芸術作品といえます。一方、一般的には嫌われがちなが類ですが、種数はチョウ類に比べると圧倒的に多く、その翅の斑紋や生態は非常に多様です。

若く輝くモルフォチョウ、「春の女神」と呼ばれるギフチョウや、手のひらより大きなヨナグニサン、ガとは思えない美しさを誇るニシキツバメガなど、美しいチョウやガからちょっと不気味なが類まで博物館に大集合！福井市在住の昆虫研究家 下野谷豊一氏のコレクションからチョウとガを選びすぐって展示します。あわせて、当館が所蔵する福井県産のチョウ類、ガ類の標本も一堂に展示します。大自然が作り出した多彩なデザイン、チョウやガの世界を存分にお楽しみください！（学芸員 梅村信哉）

1. Beautiful butterflies

～神様が創った貼り絵～

チョウの魅力は何といってもその色鮮やかな翅の模様や色彩にあります。このコーナーでは、世界の美しいチョウの標本を一同に展示します。



タカネクジャクアゲハ

2. 福井県のチョウ類

福井県では約120種のチョウ類が確認されています。じっくりみると、福井県内に生息するチョウ類の模様も多様性に満ちています。このコーナーでは、福井県のチョウを紹介するとともに、チョウの目から見た足羽山や福井県の実環境変化についても紹介します。



クジャクチョウ

3. 多様性と

驚きに満ちたガの世界

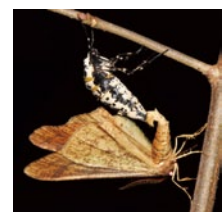
ガはチョウに比べて種数が圧倒的に多く、翅の模様や生態も多様です。このコーナーでは、世界の大きなガやちょっと変わった生態を持つガなどをとりあげます。また、2015年に下野谷豊一氏より寄贈された福井県産のガ類標本を一堂に展示し、福井県で1,800種以上が知られるガ類の模様の多様性の一部を紹介します。



ニシキツバメガ



ハナムグリガ



チャバネフユエダシヤク

☆展示パンフレット発行！

今回の展示を案内する、フルカラーの展示パンフレットを発行します。世界と福井のチョウやガの多様さや美しさを手軽に楽しめるパンフレットです。

2017年3月発行 価格：200円



博物館1階ホールに、アトラスオオカブトの館が登場します！

この春に博物館1階ホールに設置するカブトムシの館には、アトラスオオカブトが登場します。フィリピン、インドネシアなど東南アジアに棲む、真っ黒な大型カブトムシです。上翅には光沢があり、光の当たり具合でメタリックグリーンに反射する特徴を持ち、非常に気が荒いことでも知られています。ぜひ当館においでいただき、観察したり、触ったりしてみてください。

また他にも、光り輝くニジイロクワガタ、パプワキンイロクワガタなど美しいクワガタやカブトムシを展示する予定です。

期間中、カブト、クワガタの幼虫の飼い方教室を開催します。

- カブトムシ幼虫教室2回・定員各40名 3/19(日)・3/25(土)
- クワガタムシ幼虫教室1回・定員40名 4/29(土)

時間はいずれも14:00～。小・中学生が対象。往復はがきにて要申込。

詳しくは、当館ホームページをご覧ください。博物館までお問い合わせ下さい。



それぞれ参加されたお子様には幼虫を1匹ずつプレゼントします。この他にもカブトムシ教室参加者のうち希望者にはヘラクレスオオカブト、ネブチーンオオカブト等の外国産カブトの幼虫を、クワガタムシ教室参加者で希望者にはニジイロクワガタムシの幼虫・成虫をプレゼントします。希望者多数の場合は抽選になります。自分が育てた幼虫が成虫になる感動をぜひ体験して下さい。参加お待ちしております。

(写真/学芸員 梅村信哉)
(文/非常勤職員 伊藤勝幸)

足羽山で見られる春植物

落葉広葉樹林の林床で早春に花を咲かせ、木々の葉が茂る初夏には地上部が枯れ休眠する植物を春植物といいます。やわらかな日光が差し込む早春の足羽山では、春植物の美しい花が林床を彩ります。



(2013年3月22日 足羽山)

キクザキイチゲ(キンボウゲ科)

花弁はなく、がく片が花弁の役割を果たします。花の色は白色、ピンク色、紫色、青色など多様ですが、足羽山では紫色の花が多く見られます。



(2015年4月2日 足羽山)

カタクリ(エリ科)

発芽から開花までに7～8年ほどかかるといわれています。花は下向きに咲き、赤紫色の花被片(花弁やがく片)は反り返ります。足羽山のカタクリ群生地では、ごく稀に白色の花が見られます。



(2016年4月6日 足羽山)

ムラサキケマン(ケシ科)

植物全体がやわらかく、水分を多く含んだ茎の上部に赤紫色の花がびっしりと咲きます。足羽山では道際などにも群生していて、鮮やかな色の花がよく目に付きます。

(写真・文/学芸員 中村幸世)

春に現れる蛾は おもしろい

富沢 章

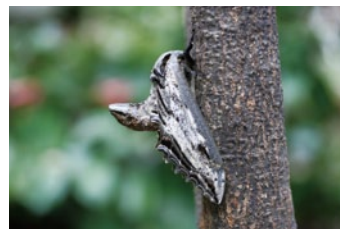
(元石川県ふれあい昆虫館館長)

昆虫の好きな人は春が待ち遠しいと思います。私もそのひとりで、早春に現れる蛾（春蛾）を調べるために3月に入ると昼夜を問わず、野外へ出かけます。

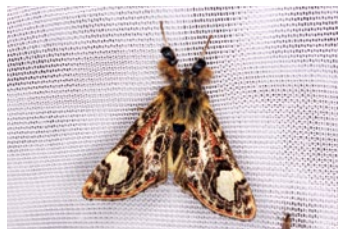
●灯火に集まる蛾

暖かい夜に街灯などを巡回すると、地表でバタバタと動き回るオオシモフリスズメ〔写真1〕に出会うことがあります。本種は日本最大のスズメガでハネを広げると13cm以上になります。ステルス機のような体型で、捕まえるとチイチイと鳴き、脚の先端が鋭く痛いため思わず手を引っ込めることがあります。腹部を反り返らせて木に止まっている姿は新芽に擬態しているともいわれています。マイコトラガ〔写真2〕は4.5cmぐらいで、体は長い毛でおおわれていてモフモフ、前脚と背中には青黒い毛塊があります。名前のマイコは「舞妓」が由来で、白い紋と赤、灰色、黄色のまだら模様のはでな和服のように見えるからでしょうか。

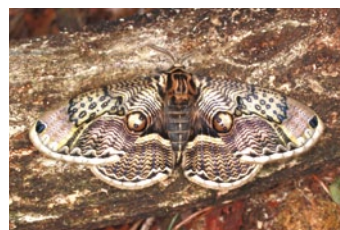
イボタガ〔写真3〕は9～10cmの大きな蛾で、夜遅くなってから灯りに飛来するので出会える機会は少ないようです。幾何



〔写真1〕静止するオオシモフリスズメ



〔写真2〕灯火に飛来したマイコトラガ



〔写真3〕個性的な模様のイボタガ



〔写真4〕糖蜜に飛来するヤガの仲間

学的で芸術的なハネの模様は不気味と感じる人と魅力的と感じる人に分れます。前翅の目玉模様は猛禽類への擬態といわれ、英名でOwl moth（フクロウ蛾）と呼ばれています。そういえば目玉の間にある腹部はクチバシに見えます。これらの3種はギフチョウと同様、蛹で越冬し、成虫が春にだけ出現することで共通しています。

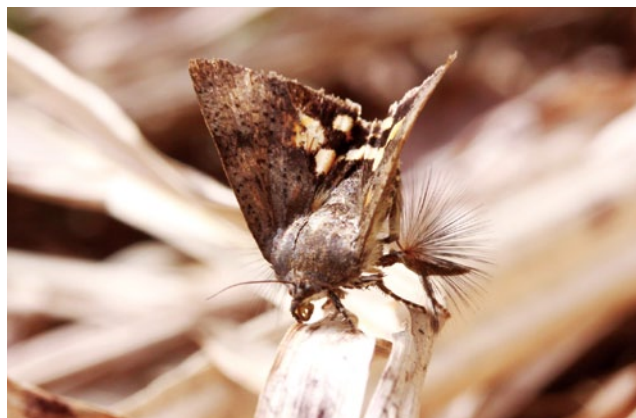
●糖蜜に集まる蛾

黒砂糖とビールなどを混ぜたものを日没直前に樹幹に塗りつけておくと、ヤガの仲間が集まってきます。早春には、蛹で越冬し春にだけ出現するヨトウガの仲間や、成虫越冬して春に再び現れるキリガの仲間が見られます。条件がそろえばテンスジキリガなどの越冬組やブナキリガなどの春組がたくさん飛来します〔写真4〕。糖蜜採集では灯火で得られない種類が採れることがあるので、蛾屋の採集法として定着しています。

●昼に活動する蛾

早春の天気の良い日に谷沿いの山道を歩くと、素早く飛び回り時々枯れ草に静止する茶色っぽい蛾を見つけることがあります。昼行性のニホンセセリモドキ〔写真5〕で、後翅には4つの黄色い紋があるのが特徴です。よく観察すると本種の♂は写真のように後バネに毛の束（ヘアーペンシル）があり、そこからフェロモンを出して早を誘います。ニホンセセリモドキは3～4月に求愛、交尾、産卵するので人目に付きやすいのですが、実は前年の7月に羽化していて、ほとんど活動することなく成虫で越冬するという生態を持っています。

以上のような早春に見られる蛾には、斑紋や生態で個性的な種類が見られます。皆さんの近くの里山にすんでいる種類ばかりなので、4月上旬頃、春蛾さがしに出かけませんか。



〔写真5〕ヘアーペンシルを出すニホンセセリモドキ♂

《あとがき》

今号では、早春に見られる植物や昆虫の話題を取り上げました。長く寒い冬を耐え忍び、暖かい春の訪れと共に活動を始める生きものたち。その多種多様な色や模様、生態などに、自然の不思議さと生命力を感じます。ぜひ皆さんも早春の野山を歩き、生きものの姿を探してみてください。

また、当館にて3月18日から開催する特別展では、チョウとガの仲間にスポットを当て、それらの多様性に満ちた世界に迫ります。標本をご覧いただき、実物ならではの迫力と魅力を間近で感じてみませんか。ご来館、お待ちしております。

(中村)

《交通案内》

【電車】

●福井鉄道福武線 足羽山公園口駅・商工会議所前駅 各徒歩20分

【バス】

- 京福バス：清水グリーンライン（74系統）足羽山公園下バス停（あじさいの道登る）、不動山口バス停（藤島神社登る）各徒歩10分
- コミュニティバスすまい：西ルート（足羽・照手方面）愛宕坂バス停 徒歩10分
- まちなか観光周遊バス：足羽山バス停 徒歩3分

※11月26日（日）までの土日祝日のみ運行（3月27日（月）～4月10日（月）は毎日運行）

【徒歩】JR 福井駅から徒歩30分

《ご利用案内》

開館時間 ●午前9時～午後5時15分（入館は午後4時45分まで）

休館日 ●月曜日（祝日は開館）、祝日の翌日、年末年始

入館料 ●高校生以上100円（20名以上の団体は半額）

中学生以下、70歳以上、障害者および付添の方は無料

